

樹種名	ヤマボウシ	
科 目	ミズキ科	
学 名	<i>Benthamidia japonica</i>	
分 布	本州から九州の山地に普通に生え、国外では朝鮮半島、中国に分布する。	
樹木特性	本来山の谷筋などに自生する樹木で、水はけが良く常に水が存在する場所を好む。乾燥に弱く、葉の回りが枯れたり、全体が枯れるので、乾燥させないことが必要である。また、土壌改良などをして水はけのよい状態にして根が伸び易いようにしてやる必要がある。	
用 途	街路樹・庭園樹・公園樹としても用いられる。材は器具材として用いられる。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	12 本／0.004ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹形】 落葉高木であり高さ 5~10m となり、幹は灰褐色ウロコ状に剥がれる。 葉は対生し、楕円形または卵円形で長さ 4~12 cm、全縁でやや波打つ。花は 6~7 月に開き、淡黄色で小さく、多数が球状に集合し、その外側に大形白色の総包片が 4 枚あり、花卉のように見える。 果実は集合果で 9 月頃に赤く熟し、直径 1~3 cm で球形、食用になる。種子は約 3 mm で、大きい果実には 3~4 個、小さい果実では 1 個入っている。果肉はやわらかく黄色からオレンジ色でありマンゴーのような甘さがある。果皮も熟したものはとても甘く、シャリシャリして砂糖粒のような食感がある。	  
試験地での様子	ポット苗により植栽し、12 本が現存している。	
被 害	野兎・鹿の食害により上長成長が阻害された。	

【現存率】

平成 26 年に毎木調査をした結果、12 本が現存している。

【根元・胸高直径】

平成 26 年に毎木調査をした結果、平均胸高直径は 0.66 cm であり、成長スピードは遅い。

【樹 高】

平成 26 年に毎木調査をした結果、平均樹高は 2.84m であり、上長成長スピードは遅い。



《プチ情報》

庭木などにも利用されるが、花・果実・紅葉と 3 回楽しめるので、庭木にもよく用いられるが 10m 近くまでに育つ樹であるので周囲に空間を必要とする。

ヤマボウシの実には山の果実の中ではとても甘い。

病気では特に目立ったものはないが、害虫ではアブラムシ、カイガラムシが付くことがあり、すす病（昆虫の排泄物に黒いカビが生えたもの）を誘発する。また、幹に穴を開けて食害するテッポウムシが付くことがあり、注意が必要である。

ヤマボウシを品種改良することによって、実の大きな品種（ビッグアップル）、落葉しない品種（ホンコンエンシス）、斑入りの品種（ウルフアイ）、赤みがかった花をつける品種（源平・サトミ）、黄色の花をつける品種（金陽）などの多彩な種が流通している。

